



だいまょうはいち

## 1 江戸時代初期の九州北部の大名配置について調べよう。

(1) 1601年と1632年の大名配置図を比べて、気付いたことを書きましょう。

- ・1601年、江戸幕府が開かれたころは、豊前小倉藩の藩主は細川家だったのに、1632年には、小笠原家にかわっている。
- ・筑前福岡藩の藩主は、1601年も1632年も黒田家のままで、かわっていない。
- ・1632年になると、豊前国は2つの藩に分かれている。

・・・など

○豊前小倉藩…今の小倉北区、( 門司 )区

○筑前福岡藩…今の若松区、( 戸畑 )区、( 八幡東 )区、( 八幡西 )区

(2) 初代小倉藩主細川忠興と細川家に替わって小倉藩主となった小笠原忠真についてまとめましょう。



【細川忠興】

- ・関ヶ原の戦いで戦功のあった細川忠興は、丹後国宮津から入国した。
- ・小倉城を大改築し、城下町や社会の諸制度など、小倉藩の基礎を築いた。
- ・1620年に三男忠利があとをつぎ、1632年、細川氏は熊本にうつった。

・・・など



【小笠原忠真】

- ・1632年、細川家にかわって、播磨国明石からうつってきた。
- ・忠真は、徳川家康のひ孫にあたり、九州に最初に入った譜代大名であった。
- ・細川家とも親せき関係にあって、細川家の築いた小倉藩の基礎を発展させた。

・・・など

(3) 幕府が細川忠興や小笠原忠真を小倉藩主にしたわけについて考え、書きましょう。

- ・小倉藩は、九州と本州をつなぐ玄関口で、とても大切な位置にあった。幕府は、徳川家と親しく、信用できる大名である細川忠興や小笠原忠真を藩主にして、九州の大名たちを支配しようと考えたからである。

・・・など